

をしっかり固く把握して動じない意味。

石 (1) 掌を上向けた手を拳に握りしめて、その手首の辺りを口で噛む真似をする。歯におえない石の固さを表現したもの。「固い」の手まねにもなる。(2) 左手の五指の指頭を前方にさし、右に向けた掌を、右手の五指の指頭で打ちつける。火打石の石を打ち合わせる動作により石を表わしたものの。

医者 医—男性(女医の場合女性)

以上 (1)「六以上」とするには、左手で「六」の数を表わしたので、右手の掌に載せ上へさし上げる。(2)「それまで」の意味の「以上」は「終わり」と同じ手まね。

偉人 偉い—名高い—男性(或は女性)

椅子 椅子 左手の人差指と中指を椅子の腰掛け台として、その上に、右手の人差指と中指を椅子にかける人の両脚として、曲げて載せる。以前 (1) 過去と同じ手まね。(2) 「その

以前」とする場合、五指の指頭を前方にさし、掌を右向けた左手に、五指の指頭を左にさし、掌を上向けた右手を接近させて、その五指を少し曲げて右へ引き返す。左手を「その」「その時」の線として右手を右へ引き返すのは、「その前」「それまでの時」を表わしたものの。

忙しい 「急せる」「周章てる」と同じ。

しかし、表情に相違がある筈。

急ぐ 「忙しい」と同じ。これも、その意味に添う表情を持つ。

悪戯 「悪さ」「やんちゃ」と同じ手まね

頂く 両手を重ね合わせて額へ頂く。貰う

受ける身振り。

痛い 痛む 掌を上向け、五指を彎曲して

は伸ばす運動を二三度繰り返す。「わくわく」と痛む感覚を表現したもの。片手にても、両

手を同時に使ってもよい。

悼む 哀れ（悲しい）——云う。
毒 五指を集めた指頭で、鼻頭をつつく。

赤い鼻をした人から想像した毒。

市場 高い店—店—店。「店」の手まね

を初めに右寄りで度わし、次に前に、そして左寄りと三度ばかり表わす。店の並んだ様。

一日（終日） 人差指と親指をまるく屈めて半円にした両手を間隔を置いて向い合わせで大きな一つの円（太陽）を形どり、それをそのままの姿態で右の腹の脇廻りから上へ弧を描いて胸の前を左へ移行させ、左の腹の脇廻りに落す。日出より日没までの太陽の移行。

一昼夜 一日（終日）の手まねで、左の腹の脇まで落した両手の運動を更に続けて下方へ弧を描いて右の腹の脇まで一周させる。太陽を地球が一周したこと、この他、「寝る一つ」と表わして一日（一昼夜）とするもよ

い。即ち腕を枕にして寝る身振をして「一」を表すればよい。

○三日四日と日数を表わすには、この様式で、夫々の数を表すればよい。

一任（委任） 左手の彎曲した五指の指頭を、右肩の上に被せるように置いて（責任）前へ五指を開いてさし出す。責任を先方に渡すの意味。

意地悪る 「悪意」と同じ手まね。

一曇手 掌を下向け五指の指頭を右にさした左手を胸の右脇前につけ、その手甲の上に五指の指頭を上になしし掌を左向けた右手の腕の肘を載せる。これは「司る」と云う手まねであるが、「一曇手」とするには、その姿態で右手の人差指一指だけを出して見せる。

いつ（何） 時間—いくつ。（何） 何月何日
いつも（常に） 「毎日」と同じ手まね
一切 「凡て」の同じ手まね。